

授業科目 解剖生理学 I

科目コード番号

【担当教員名】 宮岡 洋三	対象学年	1	対象学科	栄養
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要及び学習目標】

<概略>本科目では、「生体の構造（つくり）」と「生体の機能（働き）」について、その基本的な知識を学びます。解剖学も生理学も、ともに生体を理解する上での基礎となる学問です。解剖学が「生体の構造」に主眼を置くのに対して、生理学は「機能（働き）」の理解を目的とします。しかし、この両者は互いに密接に関連しているので、生体の理解にとって車の両輪と言えます。本科目では、両者を有機的に結びつけて学習してゆきます。

<学習目標>管理栄養士養成では、解剖学と生理学を統合した科目として「解剖生理学」を設けています。ここでは、解剖学を先行させて構造的な知識を得てから、生体機能の理解＝生理学へと進みます。本科目では、使用教科書（下を参照）の前半部分にある内容を中心に学びますが、そこでは「解剖生理学」全般に関わる基礎知識の習得を目指します。従って、「解剖生理学 I」で得た知識を基に、後期にある「解剖生理学 II」へと進む予定です。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	序論、細胞-1	生体の構成単位である細胞とそれを囲む内部環境について学ぶ	講義
2	細胞-2、組織	細胞・組織・器官の種類、構造ならびに働きについて学ぶ	同上
3	血液、体液	血球と血漿（止血、線溶を含む）、血液型、体液について学ぶ	同上
4	骨と骨格系	骨の形状・連結ならびに全身を構成する骨格系について学ぶ	同上
5	筋とその収縮	骨格筋の構造と収縮型ならびにその機序、平滑筋について学ぶ	同上
6	神経系の構造と機能-1	ニューロンの興奮、神経系の基本構成、末梢神経系について学ぶ	同上
7	神経系の構造と機能-2	脊髄から大脳皮質に至る中枢神経系の各レベルの機能について学ぶ	同上
8	神経系の構造と機能-3	脳神経12対と自律神経系の構造および機能について学ぶ	同上
9	感覚系の構造と機能-1	感覚の一般的性質と特殊感覚（視覚）の基礎的知識について学ぶ	同上
10	感覚系の構造と機能-2	特殊感覚（聴覚・平衡感覚・化学感覚）と体性感覚について学ぶ	同上
11	循環器系の構造と機能-1	心臓の収縮機構ならびに血液循環の機構について学ぶ	同上
12	循環器系の構造と機能-2	血圧などを制御する循環調節反射の神経機構を中心に学ぶ	同上
13	呼吸器系の構造と機能-1	呼吸器系の構造、呼吸運動、呼吸気量、ガス交換について学ぶ	同上
14	呼吸器系の構造と機能-2	呼吸機能に関係する神経性ならびに化学性調節機構について学ぶ	同上

【評価方法】

授業への出席と期末試験

【履修上の留意点】

<学習目標>にも記した通り、本科目と後期にある「解剖生理学 II」とは一連の内容となっています。本科目の学習が不十分な場合、「解剖生理学 II」の理解が困難となる可能性もあるので留意して下さい。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	新しい解剖生理学（改訂10版）	山本・鈴木・田崎	南江堂	2001年・3,300円
参考書	必要に応じて指定（基本的に、本学図書館の所蔵図書）			
その他 （プリント等）	必要に応じて配布			